

令和3年度 第2回 介護福祉学科 教育課程編成委員会 報告書

日時：令和4年3月22日（火）10：30～12：00

場所：zoom形式

参加者名

委員 大久保 佳世（社会福祉法人はるび 特別養護老人ホームはるびの郷施設長）
委員 佐々木 幸（日本介護福祉学会・日本社会福祉学会）
教員 石川 秀志（教務部長 兼 介護福祉学科総括学科長）
教員 細野 真代（介護福祉学科学科長）
教員 岡本 啓介（介護福祉学科教員）
職員 星 朋美（教務課係長）
職員 鈴木 慶紀（教務課）

議題：

1、はじめに

冒頭、司会の細野より、前回の振り返りがあった。また令和4年度の入学者数状況について、昨年度より日本人学生が減少しており、日本人入学者を増加させたいため当校の魅力アップに繋がる取り組みをしていきたいことを共有した。

2、令和4年度の学科方針について

前回の教育課程編成委員会で検討された学生のモチベーションの向上のための取り組みや令和4年度の学科方針について、細野から共有した。

[モチベーションの向上と当校の魅力に繋がるための取り組み]

前回の議題でもあったモチベーションの向上を図ることと、当校の魅力に繋がるための取り組みとして、以下の特別講義を実施することを共有した。

①企業連携

介護福祉士養成校の老舗、介護福祉士のマザー校という当校の強みを活かし、企業と連携（現職者による講義）を実施していく。

②卒業生との連携

卒業生に來校してもらい、現在の活躍について話してもらう場を作る卒業教育を充実させる。またそれと同時に在校生には、身近な卒業生が来ることで自分のミライを創造できる機会を与える。

③ニップクステップ

元は「カスタマイズカリキュラム」という名称で存在していたが、新入生と在校生に伝わりづらいため、この名称に変更した。ニップクステップは、認知症サポーター・介護予防運動指導員等の資格の取得も可能で、介護の最新情報等の外部の知識を取り入れて、自分のミライへのステップになるように企画していく。

石川)

自分の将来を描けるようにキャリアプランの手助けを行う。学校とは異なる現場のリアルを伝え、しっかりとした仕事理解をしてもらうことが目的。

[各出席者からの意見]

佐々木委員)

卒後教育について、現場で働いている方は、社会との関わりが持てず閉塞感を感じていることが多く、自分の可能性が分からないまま、仕事をしていても成長ができない。だから、母校で他施設の状況を聞くことや、自分のことを伝えることで成長を感じられることもある。学校としては、それを実践してみてキャリア教育のニーズを探っていき、継続的な教育に繋がれば良い。

ニップクステップについて、現在はキャリアの中で起業した人を招聘する時代になって来ている。キャリアプランの1つとして起業の知識があっても良いだろう。

大久保委員)

卒後教育について、最初は愚痴でも良く、現場での体験談を聞けることは、学生にとって身近に感じる事ができて良い。また、成功している人の成功体験が感じられる講義があるとモチベーションが上がるだろう。

ニップクステップでの資格取得について、資格があると現場で活用できるものなので、取得して損はない。しかし、介護の基礎があつての+αになるので、幅を広げすぎないでできるものが好ましい。

④地域連携

今後は「地域共生社会」の実現が重要なため、学校として、介護福祉士として社会貢献できる以下の活動を行っていきたい。

- ・近隣施設でのレクリエーション

同じ地域の施設、老人センター等で実施する。

- ・地域ミーティング

校内の教室を使用し、地元企業や住民の方々と地域で起こる震災等の課題について一緒に考えていく。

- ・地域のごみ拾い
- ・認知症カフェ

今はコロナ禍でできていないが、それに変わるものとして、動画配信をしていく。

・地域に向けての活動・企画

地域の方々のニーズに合わせて、行っていきたい。

大久保委員)

地域連携について、現場で働いている人は、その中で完結してしまいがちで、地域まで目が届かないことが多いが、社会福祉法人だからこそできることがあるので、施設としても課題の1つでもある。

佐々木委員)

地域包括とタイアップするのも良いかもしれない。そこで地域の実情を知ってから、どのようなニーズがあるのかを把握して活動や企画をしていくと、学生としては授業と繋がる部分があるかもしれない。

[学生指導]

今年度1年間は、遅刻者が多くおり、授業中にトイレに行く学生やスマートフォンを弄ってしまう学生が多くいた。このような生活態度が良くなかったこと、実習先へのマナーが良くなかったことを踏まえ、日直制度を設け、以下の生活指導を徹底していく。また、それぞれの教員の指導のずれで学生が混乱しないように、教員間で学生情報の共有を行い、指導の共通化をする。

①授業開始と終了の挨拶

②教室の物品の補充

③授業後の教室の掃除

[留学生対応]

日本語力向上のための仕組みを構築していく。以前の日本語サポートは、授業についていくためのものであったが、今後は国家試験の合格や介護福祉士になったあとを見据えるためのサポートに変更する。具体的には、学習到達度を可視化できるようなステップアップリスト(CAN-DOリスト)を作成していく。「読む」・「書く」・「話す」の指標を段階的に設定し、日本語能力検定N2は取得できるように目指す。

石川)

留学生の日本語能力向上を行うにあたって、日本人と日常生活を共にしていくことが大切であるため、日本人と同じクラスにする。これにより日本語能力向上以外にも、協力することの必要性や多様性等もお互いに理解を深めていく。その結果、国家試験合格率向上にも繋げたい。

[各出席者からの意見]

佐々木委員)

留学生対応について、外国人の介護人材シンポジウムの中で、「N2を取得すると給料が上がる」ことを伝えることは効果的で、実際にN2取得者が増加した。しかし、日本語能力が上がったため転職者が増加したことも課題に挙がっていた。そのため、介護の魅力と同時に示す必要があり、学生を多面的にみる必要がある。

大久保委員)

日本人と留学生を合同クラスにすることについて、施設で新型コロナウイルス感染者が出たときに、職員間で同じ苦労を共有したことで団結感が高まった。そのため、形は違って何かが同じことを共有できることや、成功体験を一緒にすると達成感を生むことができ、それが結果的にモチベーションの向上に繋がることもある。

留学生対応について、留学生の実習生を見ていると記録の「書く」ことは苦労しているため、「書く」指導を学校ですてもらうことは現場としても助かる。

4、その他

[外部への情報発信]

ホームページの更新頻度をあげる。今年度は学生募集が上手くいかなく、更新が少なかったことも理由の1つと考えている。そのため、今後は学生企画、介護過程発表会、授業、イベント等を掲載していき、当校の魅力アップに繋がるようにしていく。

石川)

学生が自分自身の頑張っている姿を外部に発信することで、モチベーションの向上を図っていく。

[各出席者からの意見]

佐々木委員)

ホームページは、地域の人が活用できるように一部を独立させて地域のプラットフォームにしても良いだろう。

大久保委員)

卒業生を含めてサイトを見ている人は、授業のことや活動報告の更新があることは楽しみのため、更新頻度を高めることは効果があるだろう。

まとめ

- ・モチベーションの向上の取り組みとして、授業で企業や卒業生と連携し、現場を身近に感じてもらう。またニップクステップは、資格取得可能な講義があり、最新情報等、外部の知識を取り入れて自分のミライへのステップになる手助けを実践する。
- ・地域連携について、今後は「地域共生社会」の実現が重要なため、学校として、介護福祉士として社会貢献ができる活動や企画を行っていく。
- ・学生指導について、日直制度を設け、日本人と留学生の合同クラスにして生活指導を行っていく。また留学生対応について、ステップアップリスト(CAN-DO リスト)を作成し、日本語能力を向上させていく。
- ・外部への情報発信については、学生募集を行うコンテンツの1つとなるため、ホームページの更新頻度をあげていく。更新する内容としては、学生のモチベーションの向上にも繋がる可能性がある学生企画、介護過程発表会、授業、イベント等を掲載する。

以上